

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 回 中山間地域医療検討会		
事務局 (担当課)	医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時	令和 6 年 5 月 2 8 日 (火) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 2 5 分		
開催場所	ウェブ開催 及び 津久井総合事務所 3 階第 1 会議室		
出席者	委 員	1 4 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	8 人 (健康福祉局長、医療政策担当部長(兼)医療政策課長、津久井高齢・障害者相談課長、地域医療対策室長、在宅医療・介護連携支援センター所長 他 3 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	1 開会 2 市からの説明 3 議題 (1) 会長及び副会長の選出について (2) 令和 6 年度年間計画について  4 閉会		

# 議 事 の 要 旨

## 1 開会

## 2 市からの説明

事務局より資料に基づき、説明した。

## 3 議題

### (1) 会長及び副会長の選出について

委員互選により、青山委員を会長に、森田育子委員を副会長に選出した。

### (2) 令和6年度年間計画について

事務局より資料に基づき、説明した。

(青山会長) 訪問型オンライン診療実証事業についての概要を聞いたが、まずは市が所管する診療所に通っていらっしゃる方50名を目標にして始め、運用面等を今後しっかり考えていこうという事によろしいか。

(事務局) そのとおりである。

(土肥委員) 訪問型オンライン診療実証事業は、市所管の診療所で実施することだが、仮にオンライン診療が好評で今後も継続したほうが良さそうとなった場合、実施に必要なシステムやデバイスを地域の民間の医療機関に使っていただくことも市では考えているか。

(事務局) 一昨年に開催された「中山間地域の持続可能な医療のあり方に関する懇話会」においても、民間の医療機関と連携して制度設計を検討してほしいという意見をいただいている。他の自治体では、自治体が用意した車両や機材等を民間の医療機関が実施する訪問型オンライン診療にも活用している、といった例もある。本市においては、今回の実証事業の結果を踏まえ、検討していきたいと考えている。

(土肥委員) 日ごろ診療所で地域医療に従事していると、地域の病院とやり取りしたり、薬局や訪問看護ステーションと連携して対応する必要があり、多職種が連携して成り立っていると実感する。今回の実証事業のねらいや結果は、地域の様々な方にも理解していただき、一緒に使えるものが共有されると良い。

(青山会長) その他、特に意見がなければ、今回は初めての会議であるので各委員から日頃の取組や地域医療について感じている点などを話していただきたい。

(石井委員) 相模湖地区の社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会の会長をやっているが、この会議には、相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会を代表して参加している。役職柄、高齢者等のお世話をしているわけで本来はボランティア活動である。この医療の問題は3年前から大きな議題になっているが、少子高齢化が進む地域の中で、医療は人命に関わるし、「よき医療を」ということで一丁目一番地である。良き医療の方向性を間違えずに、きちっとした対応をとっていただきたいと思っている。

また、市では、地域包括ケアということで、全ての課題に対して全てのセクションが縦割りではなく横串を刺した対応をそれぞれの部署でやっているが、相模湖地区には約30年前から「けんこう号」というバスがある。主に高齢者の介護予防に資する活動のために運行し、無料で利用できるものであるが、昨年、マイクロバス1台だったものを3台のワゴン車に変更した。こうした中で、買物支援や通院支援をどうするかということ地域ケア会議で話し合っている。先日開催された市の福祉有償運送運営協議会でも話題となったのだが、かつてはタクシー料金の半額程度で利用可能だった福祉有償運送が、約8割に値上がりなるケースがある。主な利用者である高齢者や障害者、要介護の方々にとっては、今後ますます負担が増えることになるため、けんこう号を上手に活用できると良いと考えている。

(岩城委員) 民生委員として10年目になったが、医療関係の会議に参加するのは初めてである。百歳体操などを実施するサロン活動などで高齢者の皆さんが元気に生活できるように頑張っている。皆さんが元気でいられるようこれからも勉強しながら活動していきたい。

(潮委員) 訪問看護ステーション管理者会を代表して参加している。この地域では、訪問看護も今後ひっ迫してくることが予測され、いろいろと考えていきたい。この地域の医療に対し、各委員が尽力されていることなどについても知っていきたい。

(金子委員) 総合診療医として、沖縄の人口1300人くらいの島にある一人診療所で3年間診療をしたり、静岡の郡部において複数名の医者でグループを組んで、外来と訪問をするということもしてきた。現在は、横浜市の寿町で診療をしている。生活保護を受けている患者が多い市の診療所である。

相模原市が中山間地域の医療の基本方針を策定するあたり、これまでの地域での経緯が色々あるのだと思うが、方向性については理解した。引き続きいろいろと教えていただきながら、外部というか直接は関わっていない者として、意見したり議論に参加できれば良いと考えている。

(黒沢委員) さがみはら介護支援専門員の会を代表して参加している。訪問型オンライン診療については素晴らしい取り組みであり、1台の車両から試行されるとのことだが、今後、診療所の数だけ増えるなど発展に繋がると良いと思った。

介護支援専門員、いわゆるケアマネジャーは、高齢者と関わることが多い職種であるため、検討会で話題となった内容を含めてしっかりと地域の方々に説明していくことが重要な任務だと思っている。私を含むケアマネジャー全体として、不安に感じている方々にしっかりと説明して理解をいただいたり、意見をいただくというところで機能していけるように頑張っていきたい。

(佐々木委員) 2年ほど前に八王子市から藤野地区内へ生活の拠点を移した。近所には高齢者が多く、隣人から「車の運転ができなくなるとどこにも行けない大変な地域だ」と聞かされたことが印象に残っている。

八王子の方で訪問看護ステーションに約20年勤務しており、この夏に定年を迎える。高齢者問題とこれからの人生を考えるうえでも相模原市の取組に興味を持ち、訪問看護で在宅医療に携わってきた今までの経験が少しでも役に立てばと思って応募した。

医療機関がなくなってしまうことで、住民が不安に思うことは十分理解できることだが、多職種が集まって市民のためにいろいろと考えていこうともしている。とにかく相談できる場所はたくさんあるんだ、病院でなくても医療を受けられる方法はいくつもあるんだ、ということを市民の方々に理解していただければ、不安は少しずつ緩和されていくのかなと思っている。

この会に参加して自分たちができることも教えていただき、勉強していきたい。

(関戸委員) 公募委員として参加することになった。おそらく委員の中で最高齢だと思うが、後期高齢者である。この地域に50年以上暮らしているが、診療所がなくなるのは心配である。高齢化はもちろんだが、独居の方がかなり増えている。

また、交通が不便であり、千木良から内郷に向かうバスは1路線しかなく、途中で別の方向に走るためバス停を降りてから内郷診療所まで歩かなければならない。病気の人がどうやってその間を歩くのだろうと考えると、診療所の再編は、通院手段の確保の問題がとても大きいと思っている。こういったことをお話したくて応募したというのが経過である。

もう一つは、一昨年12月に基本方針案が発表されたことを受けて「中山間地域の診療所存続を求める会」を立上げ、署名活動をしたり、話し合う機会をもったり、市に要望書を提出したりといったことをしている。

(土肥委員) 国民健康保険内郷診療所に勤めている。神奈川県出身で、地域医療を専

門に勉強したくて自治医科大学で学んだ。平成5年から3年間、千木良診療所に住み込みで勤務していた。外科をサブスペシャリティにしながら総合診療医を目指し、がんセンターや県立病院で11年間、主に急性期の病院で診療したあと、縁あって内郷診療所の医師として相模湖に戻り今年で24年になった。住民と膝を交えて、目の高さを患者の生活に合わせて診療していると、介護の問題や社会問題に無関係でいられなくなる。診療所に来ている患者さんだけを診ていれば良いということではなくなり、10年ほど前から内郷地区の民生委員の皆さんとお茶会を始めたりにして、独居の高齢者や認知症者、8050問題など様々な地域の問題について共有してきた。こうした中で、診療所の医師だけで患者を診ることはできず、薬剤師をはじめ多職種連携によって地域医療が行われるということに気が付いた。地域の医療従事者が助け合っていないと地域医療はおぼつかない。みんなで知恵を出し合っているいろいろな資源や実情を共有し、いろいろなツールも活用しながら、持続可能な中山間地域の医療について一緒に考えていきたい。

(西委員) 指定管理者として市立診療所を運営している。昨年度の患者数は、その前の年度に比べて青野原が約800人、千木良は約200人、藤野は約400人それぞれ増えている。中山間地域の人口は減って、病院も患者が減っているのに、なぜ診療所の患者が増えているかという、診療所に医師が定着すると患者は増えるからである。なお、青野原は青根地域の患者が流れてきているという面もある。

診療所を統廃合した場合、多くの患者が統合先の診療所に行くことになる。診療所は新たに中間地点に立地するわけではない。患者を1か所に集めるときに、オンラインや訪問診療を取り入れながら、今まで通りに診られる体制を整えてあげなければいけない。中山間という難しい地域において、診療所に高齢者が歩いて行けなくなったときにどうカバーするか、しっかり検討しなければならないと思う。

(原田委員) 医師会を代表して参加している。相模湖で開業している。来月6月に診療報酬改定となるが、デジタル技術によって医療を再構築していく医療DXを前面に押し出した改定になっている。今回、訪問型オンライン診療に取り組むということで、10年後にこの地域がどのように変わっているかを想像しながら、デジタル技術をどのように盛り込んでいくかを検討するのは非常に良い試みではないかと思っている。このような施策をするときには10年、20年先の視野を持つというのが一番大切なことだと思っている。

(布施委員) 歯科医師会の副会長をしている。自分の地元ではないが、相模湖に嫁いで40年近く経つ。相模湖で開業している者として感じることは、40年の間に相模湖は変わったということである。帝京大学が移転するなどして、バスの便が少な

くなったため、私の歯科診療所に来るのもみんな大変な思いをしている。そういった相模湖の皆さんの声も届けられたらと思っている。

歯科医師会の立場としては、検討会では医療の方に話が行きがちだが、市民の健康を考えたときに歯は大事だよということを伝えるための連携が取れると良い。

(森田育子副会長) 薬剤師会を代表して参加している。勤務先は根小屋の薬局で、約1年前から訪問服薬指導を受けさせていただいており、わずかではあるが高齢者のお宅を訪問して薬を届けている。中山間地域は交通の便が悪く、根小屋では通院に乗合タクシーを利用している方もいるが、乗合タクシーは予約制のため、病院が終わって何時間も待たされることもあると聞く。高齢で車の運転ができずに家族が送迎するケースや、それもままならずに通院が困難という人もいる。

多職種が集まって協力しあえるこの検討会では、中山間地域の高齢者が安心して医療を受けられるよう、皆で考えていけると良い。

(森田亮委員) 病院協会を代表して参加している。私は相模原に来て4年目である。この地域では通院が困難な方が増えているので、森田病院では無料送迎を始めたたり、1年前から在宅診療部を立上げたことで認知され、利用者も増えてきている。交通の便が悪いため、市と民間ができることをMIXして新しい形で地域の医療を確立できたらと思っている。

また、この地域では医療従事者が不足している現状もあるため、どうにか市外から従事者を集められないかと考えており、森田病院では新たに今年4月から、市外から常勤医師も来てくれている。知ってもらえれば魅力のある地域だと思うので、地域みんなで協力して、人を呼び込むくらいの新しいことができればと思っている。

(青山会長) 中山間地域の持続可能な医療のあり方に関する懇話会でも会長を務め、経過も含めていろいろと勉強させていただいた。今回、住民の皆様から診療所を統合しないでほしいといった意見も伺っているが、様々なご意見を真摯に受け止めながらこの検討会を進めていきたい。

#### 4 閉会

以 上

中山間地域医療検討会 委員出欠席名簿

(五十音順)

氏名	選出団体等	出欠
あおやま 青山  なおよし 直善	学識経験者 (北里大学医学部総合診療医学 主任教授)	出席
いしい 石井  ふゆき 冬樹	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
いしばし 石橋  りょうち 了知	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	欠席
いわき 岩城  み の美野	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
うしお 潮  たまき 環	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
かねこ 金子  まこと 惇	学識経験者 (横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 准教授)	出席
くろさわ 黒沢  しんご 慎五	さがみはら介護支援専門員の会	出席
ささき 佐々木  ゆかり 由加里	公募委員	出席
せきど 関戸  ひでこ ヒデ子	公募委員	出席
どい 土肥  なおき 直樹	相模原市立国民健康保険診療所	出席
にし 西  やつし 八嗣	相模原市立診療所の指定管理者	出席
はらだ 原田  たくみ 工	相模原市医師会	出席
ふせ 布施  あつこ 厚子	相模原市歯科医師会	出席
もりた 森田  いくこ 育子	相模原市薬剤師会	出席
もりた 森田  りょう 亮	相模原市病院協会	出席